

第1回 標準委員会 発電炉専門部会
リスク情報活用安全評価手法標準ガイドライン分科会 P12SC1
議事録

日時 2006年10月31日（火） 13：30～17：00

場所 日本原子力技術協会 A・B会議室

出席者 今井（東電）、植田（電中研）、大山（原技協）、笠井（原技協）、川邊（保安院）、栗坂（JAEA）、倉本（NEL）、黒岩（MHI）、越塚（東大）、小島（CSD）、佐治（TEPSYS）
関根（JNFL）、成宮（関電）、久持（日立）、平野（JAEA）、福田（JNES）、
福村（北陸電力）、牟田（東芝）、村松（JAEA）、門谷（原電）

常時参加者 岩田（TEPSYS）、藤田（中電CTI）、村山（関電）

傍聴希望者 金尾（四電）

（敬省略）

配付資料

P12SC1-1 標準委員会の活動について

P12SC1-2-1 原子力発電所におけるリスク情報活用ガイドライン分科会設置について

P12SV1-2-2 リスク情報活用ガイドライン（案）の概要

P12SC1-2-3 米国リスクインフォームド規制におけるEPRI PSA活用ガイドの役割

P12SC1-3 リスク情報活用に関する方向性～事業者の視点から～

P12SC1-4 原子力安全規制への「リスク情報」活用の取組みについて

P12SC1-5 REGULATORY GUIDE 1.174 “AN APPROACH FOR USING PROBABILISTIC RISK ASSESSMENT IN RISK-INFORMED DECISIONS ON PLANT-SPECIFIC CHANGES TO THE LICENSING BASIS”（プラント個別の認可ベース変更に対するリスク情報を活用した意思決定に確率論的リスク評価を用いるための手引き）の概要

P12SC1-6 RG1.174と基本ガイドラインの比較

参考資料

P12SC1-参考1 リスク情報活用ガイドライン分科会 委員リスト

P12SC1-参考2 R.G.-1.174原文

議事及び主な質疑応答

（1）出席者確認・資料確認

原子力学会事務局より出席者数を確認し全委員数22名のうち20名が出席しているため、本分科会の定足数を満たすことが確認された。

議事次第に基づき配布資料の確認を行なった。

（2）標準委員会の活動について

原子力学会事務局より、資料P12SC1-1を使用して標準委員会活動について、①組織図、②標準委員会の活動方針、③標準委員会規程、④標準委員会運営内規、⑤標準委員会専門部会運営通則、⑥標準委員会審議要領、⑦標準作成の手引きについて説明があった。

(3) 役員選出

原子力学会事務局より役員の選出について説明があり、投票によって主査を選出した。投票の結果、平野委員17票、村松委員2票、越塚委員1票となり、平野委員が主査に選出された。

平野主査が、福田委員を副主査に指名した。

平野主査、福田副主査が相談の上、大山委員を幹事に指名した。

(4) 人事について

原子力学会事務局より岩田氏（TEPSYS）、桐本氏（原技協）、日高氏（原安委）、藤田氏（中電CTI）、村山氏（関電）が常時参加希望である旨説明し、委員によって挙手を行ない、全員一致で参加を認めた。

(5) 分科会設立趣旨説明

笠井委員より資料P12SC1-2-1を使用して本分科会の設立趣旨、ベースとする材料、スケジュール感について説明があった。また、資料P12SV1-2-2を使用して本分科会が作成しようとしているガイドラインのイメージを説明した。ただし、このイメージはあくまでもスタートの段階のイメージあわせや議論の促進のためであり、この資料通りのものを目指すわけではない旨の説明があった。

各学協会で作成していく個別のガイドライン等の議論をよくウォッチしながら進めていきたい旨の確認がなされた。

(6) 自己紹介

各参加委員によって自己紹介が行なわれた。

(7) 分科会設立趣旨補足説明

大山委員より資料P12SC1-2-3を使用して、EPRIのPSA Application Guideの概要紹介があった。このガイドは、発電炉専門部会において米国産業界にはPSA活用のガイドラインが存在しないのかという質問があった経緯を反映して本分科会においても紹介したものである。ただ、このドキュメントはEPRIの会員のみが利用できるものであり、本分科会にはこのドキュメントは開示できない旨の説明があった。

(8) リスク情報活用に関する方向性～事業者の視点から～

今井委員より資料P12SC1-3を使用して事業者の視点からリスク情報活用に関する方向性について説明があった。今後米国の活用事例やわが国での具体的な検討例の紹介をしていくことが確認された。

(9) 原子力安全規制への「リスク情報」活用の取り組みについて

川邊委員より資料P12SC1-4を使用して原子力安全規制への「リスク情報」活用の取り組みについて説明があった。また、11月には保安院・リスク情報活用検討会が開催され、当面の実施計画の進捗状況の確認がある旨の説明も併せて行なわれた。

(10) R.G-1.174の概要について

佐治委員より資料P12SC1-5を使用してRG-1.174の概要について説明があった。

RG-1.174の各要件について確認し、活用ガイドラインにどのような要件を記載していくのかについては、今後ひとつひとつ議論していかなければならないとの認識で一致した。

(11) RG1.174と基本ガイドラインの比較

大山委員より資料P12SC1-6を使用してRG1.174と基本ガイドラインの比較について説明があった。これは今後の議論のために提示したものであり、各委員が持ち帰りこの比較考察を行なって、今後活用ガイドラインにどのような記載が必要かを検討していただきたい旨の依頼があった。ただ、産業界では過去

に活用ガイドラインに関する検討の経緯もあるので、主にMHI、TEPSYS、NELに分担して考察を行なってもらいたい旨の説明もあった。違いを比較するという意味ではなく、何をやるかという論点を明確にするための考察であることが確認された。

また、これとは別に今後議論を行いやすくするために、各委員の考えうる論点を整理しその結果を次回分科会で確認することになった。

(12) その他

大山委員より次回と次々回の日程について説明があり、第2回目は12月21日（木）13：30～、第3回目は1月30日（火）13：30～（仮決め）とした。

以上